

栃本 真理乃
澤木 昌典
柴田 祐

大阪大学大学院工学研究科
大阪大学大学院工学研究科

1. 研究の背景と目的

1980年以降、産業構造の転換に伴って、多くの都市や地域において、産業基盤の損失や雇用機会の減少、環境問題などの様々な問題が発生してきた。そうした中で、欧州やアメリカの都市で芸術文化を中心にすえた事業による都市再生が行われるようになってきている¹⁾。例えば、フランスのナントでは、ピスケット工場跡地をアートセンターに再生するなど、市民が日常的にアートに関わる場所を創造している²⁾。芸術文化の持つ創造性を新産業や雇用の創出に役立て、都市問題の解決に活かし、都市再生を行っているこのような都市は、『創造都市』と呼ばれている。欧州の都市では創造的活動、とりわけアートによる都市再生の取り組みが進んでおり、そのような活動が都市の活性化に繋がったといわれている³⁾。

日本国内における、文化庁、企業メセナ、アートNPO、大学などによるアートを利用した創造的活動の動向では、メセナ活動を行う企業数の増加や大学においてアートマネジメントを扱う授業の増加など、芸術文化活動への関心が高まっている傾向が見られる。また、芸術文化は従来の室内における展示や公演などに留まらず、子どもに音楽を聞かせるワークショップや芸術系大学の学生が地域と協力して商店街の活性化を行うなど、さまざまな手段として利用され、アートという言葉の指し示す範疇が広がってきている。

まちの活性化には、人が自分のまちに対して興味を持ち、まちの歴史や文化を知り、まちに対して愛着や誇りを持つことが重要である。創造的活動は、そのためのきっかけを与えるものとなると考えられる。創造都市に関する研究として、渡部⁴⁾は、創造都市論がどのような背景から生まれたかを明らかにした。また、都市再生に関して、植田⁵⁾は、

今後の地域産業を考えていく必要があり、ネットワークや産学の連携、中小企業のメリットを活かした事業展開が必要であると述べている。しかし、創造的活動がまちにどのような影響を与え、どのように都市の活性化に繋がっているかは明らかにされていない。

そこで、本研究では、行政、企業、NPO団体、まちづくり団体、大学など、さまざまな立場の人が創造的な観点からの活動を活発に行っている大阪市を対象地として、アートを利用した活動におけるまちの建物や空間の使われ方、活動と活動主体との関係性、また活動間の繋がりを把握し、活動が都市に与える影響を明らかにすることで、創造的活動の都市の活性化に対する有効性を考察する。さらに、創造的活動についての今後の課題を整理し、アートを利用した創造的活動による都市の活性化についての有用な知見を得ることを目的としている。

2. 研究の方法と流れ

本研究では、近年大阪市において、まちを舞台に行われているアートを利用した創造的活動に着目し、調査協力の得られた13の活動を研究対象とし、活動内容や活動によるまちへの影響などに関して、それぞれの取り組みに大きく関わっている主体者に対する聞き取り調査を行い、まちに対する考えやまちづくりにおけるアートの可能性などを分析した。調査対象とした活動内容は表1のとおりとなっている。

調査対象となる活動の実施エリアは、船場、上町台地、新世界と大きく3つに分類できる。活動は、それぞれの地域の特徴を活かし、互いが複雑に絡み合って展開されている。そこで、アートを利用した活動によるまちへの影響を調べるため、活動内容を1)活動空間の展開、2)活動内容の

表1 調査対象とした活動とその内容

エリア	活動	近代建築	長屋	商店街	遊歩空間	回数及び発行部数	内容
船場	アート・カレイドスコープ					4回(年1回)	アートの多様な魅力を紹介し、アートを通じて大阪の都市力を豊かで多彩なものとすることを目指すイベント。
	Plug					10冊(3ヶ月に1回発行)	現代美術・アートが、社会の中で意義のある活動となることを踏まえ、これまでにない情報発信ペーパー。
	中之島コミュニケーションカフェ					2回(年1回、約3日間)('06-'08)	新しく生まれる鉄道駅を、大学の知、アートの力、地域の元気を活かしながら、文化芸術の創造と交流の場にしようという試み。
	ラボカフェ					28回(不定期)	大阪大学CSCDが、社会の様々な組織とコラボレーションしながら、カフェをラボラトリー(実験室)的に用いて、研究/開発を繰り広げる事業。
	船場建築祭					2回(年1回)	大阪船場の近代建築の創造的活用をテーマにした、近代建築を会場としたアートプログラムや船場FESTAな楽器の演奏や歌を通して音楽を感じることから始め、タイ、インド、インドネシア、沖縄、モンゴルの民族音楽のレッスンをを行う。
上町台地	空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト					不定期	空堀商店街界隈のよさを生かした、住みやすく魅力あるまちの創造を目指し、長屋の再生・保存を行う。
	からほりまちアート					7回(年1回)	空堀界隈の長屋や石畳の路地など、まちの様々なスペースに、アーティストの作品を展示するイベント。
新世界	コンチンポラリダンスin新世界					4回(年1回)('03-'06まで)	アーティストが公共の場でパフォーマンスすることによって、「ダンス」の持つ力を街づくりにつなげている。
	就労支援カフェ					06年度 計44回(特別イベント、WS、トークサロン、社会体験、フリンジ)	アートの手法を用いて、コミュニケーションの力を育てていくワークショップなど、直接的な就労には結びつかないかもしれないが、力強く生きていくためにできることを考えた、就労支援の取り組み。
	ピック盆					1回	地域の人々とのワークショップの中で生まれた言葉や動きを取り入れた新しい盆踊りをアーティストが創作し、盆踊り大会を開催。
ART MEETING	NAMURA ART MEETING					3回(年1回)	2004年から2034年までの30年間を芸術のひと連りの現場ととらえ、芸術活動と隣り合う社会や個人が、<出来事>を共有しつつ未来を創造するという実験である。
	log osaka web magazine					随時更新	新しい大阪を文化という切り口から見つけ出すweb magazine。情報発信だけでなく様々な企画も行う。

展開、3)活動主体間のネットワークの展開という3つの視点から、それぞれがまちにどのような影響を与えるかを整理することによって分析を行った。

3. アートを利用した活動によるまちへの影響

(1) 活動空間の展開

アートを利用した活動が空間にどのような影響を与えるかを把握するため、活動が行われた空間を、近代建築、長屋、商店街、遊休空間に分け、それぞれの空間の活動による使われ方を図1に示す12の項目に分類し整理した。

近代建築では、壁面の装飾や空間全体を利用したもの、作品の展示などが多い。建物の歴史や時間の流れを感じさせることや全く違う形態のものと感じさせることを意識して表現されている。また、見学ツアーなどで建物そのものを見せる活動、音楽や映像やダンスなど新しい要素を付加する活動も行われている。このような活動から近代建築の所有者が建物の価値を見直し、リノベーションして再利用をするケースも現れてきている。

長屋では、作品の展示やワークショップや食事など人々の交流を生み出す空間として利用されるものが多い。特徴である地域のコミュニティは維持されており、人々は密に繋がっている。建物の老朽化や生活様式の変化などが原因で取り壊され空き地が増えていた地域に、アートという接点を持つことによって、地域と外との交流が生まれている。

商店街では、商店街全体を利用したものが多い。地域の人と協力して行われた活動が多く見られ、ダンスをはじめとしたさまざまな芸術活動がまちの中に直接入っていくことで、訪れた人に本来とは違う空間を見せる。商店街で活動を行うことで、地域やその周辺に住む多くの人々が興味を持ち、活動に協力した事例も存在する。

遊休・未利用地空間¹⁾では、講演会や対話などソフト面での使われ方が多く見られる。大きく形を変えることはなくても、一時的に違う要素を付加することによって、空間を大きく変化させることができる。駅の建設途中の現場にある柱や段差を利用して、ファッションショーや講演会が行われるなど、空間が素材の一つとして活かされている。

(2) 活動内容の展開

次に、アートを利用した活動が、それに関与した活動主体によりその展開にどのような影響を受けてきたかを調べるため、活動主体の関係図を作成した。本節では、さまざまな立場の活動団体が関わっている「中之島コミュニケーションカフェ」のイベントを例に挙げて記述を行う(図2)。新しい駅の開発にあたり、電鉄会社とコンサルタント会社が協力し、文化芸術をテーマにした駅を計画したが具体化には至らなかった。しかし、そこにアーティストが関わることによって、中之島活性化実行委員会が作られ、その実行委員会によって行われたイベントが中之島コミュニケーションカフェである。

このイベントは、新しく生まれる鉄道駅を、中ノ島エリ

近代建築	
空間の使われ方	数
壁面の装飾	3
空間全体の利用	7
作品の展示	6
インスタレーション	3
映像	4
ワークショップ	0
見学ツアー	6
ダンス	3
音楽	5
食事	1
講演会	3
対話	1



大阪府庁舎 インスタレーション

- ・近代建築の所有者が、建物の価値を見直し屋上のプレハブの撤去と屋上テラスの復元が行われた
- ・前年の活動の成功により、中之島公会堂を講演会場として利用することができた

長屋	
空間の使われ方	数
壁面の装飾	2
空間全体の利用	0
作品の展示	4
インスタレーション	0
映像	0
ワークショップ	2
見学ツアー	0
ダンス	0
音楽	0
食事	4
講演会	0
対話	1



寺西家：阿倍野長屋 ワークショップ

- ・地域の人が活動に参加するようになった
- ・住んでいる人たちが自分の町に対して興味を持つようになった(マンションが建つことによる町並みの変化など)

商店街	
空間の使われ方	数
壁面の装飾	0
空間全体の利用	16
作品の展示	1
インスタレーション	1
映像	2
ワークショップ	4
見学ツアー	4
ダンス	13
音楽	3
食事	9
講演会	1
対話	3



新世界商店街 見学ツアー&ダンス

- ・活動を行うことにより、一つの地域だけではなく、その活動に興味のある多くの人たちとつながりを持つことができた
- ・まちの活性化が商店街の利益の向上に繋がることがわかり、積極的に地域文化をアピールする活動を行っている

遊休・未利用地	
空間の使われ方	数
壁面の装飾	3
空間全体の利用	6
作品の展示	1
インスタレーション	4
映像	5
ワークショップ	0
見学ツアー	1
ダンス	7
音楽	4
食事	2
講演会	4
対話	6



「なにわ橋駅」工事現場 講演会(ファッションショー)

- ・普段なかなか見ることのできない場所に入ることができた
- ・前年度の活動により、興味を持ち、さまざまな形で活動に参加・協力をしてくれる人が増えた

図1 活動の様子と活動による空間の変化

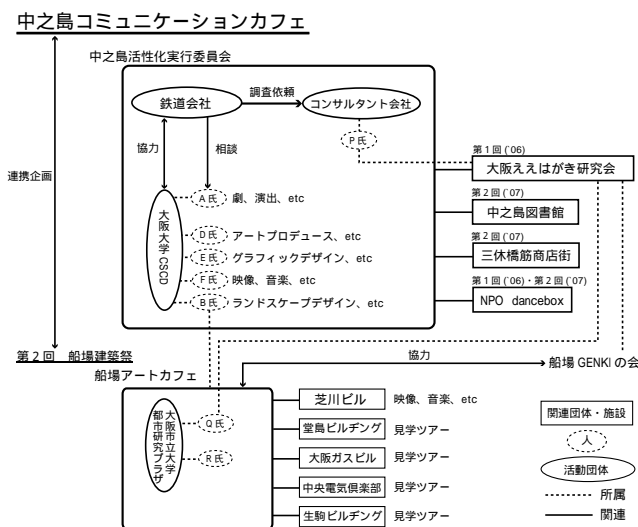


図2 中之島コミュニケーションカフェにおける活動主体の関係図

アにおける文化芸術の創造と交流の場にしようという試みである。会場はすべて工事現場で用いられるさまざまな機材を用いて構成され、建設現場を舞台としたダンスパフォーマンスや訪れた人を交えたトークプログラム、都市の歴史や都市を支える技術について語る映像カフェなど、様々な専門家やアーティストが携わり、多彩なプログラムが開催された。

2006年に行われたこのイベントでは、船場でまちづくり活動をしている大阪ええはがき研究会の作品の展示が行われた。また、2007年には、三休橋筋を使ったNPO dance boxによるダンスツアーや中之島図書館を会場とした講演会が行われた。

電鉄会社にとっては新しい駅を作ること、大阪大学 CSCD にとっては大学が地域で活躍する場とすること、NPO dance box にとっては活動できる機会を得ること、中之島図書館は地域の活性化のためと、活動に対する関わり方やそれぞれの目的が活動主体によって異なるが、それぞれの活動主体の目指すものが一致したため、このように大

勢の専門家や地域で活動をしている人や地元の人が活動に携わることとなった。芸術文化という共通要素を介して互いが協同してさまざまな取り組みを行うことで、第1回、第2回と活動エリアが広がった。また、アートとは関係がない専門家や技術者がその活動に関わり、それぞれの人の持つ専門性や技術・能力を創造的に活かすことで、活動分野がより幅広いものになっている。活動分野の広がりによって、それぞれの活動が地域の活性化という共通の目的を持って活動することができ、それが最終的にそれぞれの目的に繋がっていく。このため、2回目の活動で中之島図書館や地域の協力を得ることができた。歴史的価値のある図書館や地域の商店街が活動の場となるなど、より地域と繋がりの深い活動となった。

更に、中之島コミュニケーションカフェは2回目の船場建築祭との連携企画とされた。船場建築祭は、船場にある近代建築の所有者の協力を得て、大阪市立大学の都市研究プラザが中心となっている船場アートカフェという組織が行ったイベントである。船場では、まちづくり活動を行う団体が多数に存在しており、その中の複数のグループが集まり、船場 GENKI の会を作っている。大阪ええはがき研究会もその会員活動グループの一つであり、船場アートカフェも船場 GENKI の会と関わりを持っている。そのような地域の活動団体との繋がりがあため、地域の人たちから協力を得ることができ、逆に、地域と繋がりを持った活動を行うことができたと考えられる。

(3) 活動主体間のネットワークの展開

最後に、アートを利用した活動同士の繋がりが、まちにどのような影響を与えているかを調べるため、活動を時系列に並べると(図3)、研究対象とした13の活動が互いに関連していることがわかる。

そこで、調査対象とした13の活動に、ヒアリング調査の結果から得られた活動者が関わっている活動を加え、エリアごとで整理し、活動同士の関係図を作成した(図4)。

図4から、それぞれのエリアで活動が互いに関係してお

		2000												2001												2002												2003												2004												2005												2006												2007												2008		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3												
船場	大阪府立芸術センター	アート・カレイドスコープ												PLUG 冊子の発行																																																																																						
	大阪大学 CSCD 鉄道会社	中之島コミュニケーションカフェ																																																																																																		
	大阪大学 CSCD	ラボカフェ																																																																																																		
	船場アートカフェ	船場建築祭																																																																																																		
上町台地	からほり農薬部	空堀商店街再開発再生プロジェクト												参加												参加												参加												参加												参加												参加												参加														
		からほりまちアート																																																																																																		
新世界	芸術文化アクションプロジェクト	コンテンポラリーダンス in 新世界																																																																																																		
		就労支援カフェ																																																																																																		
		ビッグ盆																																																																																																		
		NAMURA ART MEETING																																																																																																		
		log osaka web magazine																																																																																																		

図3 活動が行われた時期と活動間の繋がり

り、複数の活動に所属している人物が活動を繋いでいることがわかる。それぞれの活動組織は、個々にしっかりとした目的を持った活動を行っているが、互いに繋がりを持ち、時に協力、連携して活動を行っている。

上町台地では、からほり倶楽部や應典院やガス会社は、それぞれが長屋の再生事業や地域の教育文化の振興、環境活動を行っているが、同時にそれぞれのメンバーが協力し合って上町台地からまちを考える会という組織を形成し、地域の資源、地域の人々の繋がり、そして外来者も含めた市民の知恵を活かした多彩な事業のコーディネートに努めている。また、芸術文化アクションプランという大阪市の芸術文化の支援・育成事業の一環として新世界アーツパーク事業やアーツアポリア事業が行われ、多くの NPO 団体がその支援を受け、互いに関わり活動を行っている。

船場では、船場建築祭で建物をアート活動に活用したという事例から、アートカレイドスコープでの活用に至った。しかし、それぞれの地域でこのような活動を行うことができたのは、それ以前からまちと関わり、地域とのネット

ワークを築いていたからである。

横のつながりを持つことにより、行政や企業の協力を得ることや地元の協力を得ることができ、一つの活動主体ではなかなか行うことができない地域を巻き込んだ活動を行うことができるようになり、また、多くの活動主体が関わることにより、活動の幅が広がり、認知度も上がり、市民の信頼も得ることができると考えられる。

4. 総括

アートを利用した創造的活動は、活動そのものは、空間の形を大きく変えるような変化ではないが、非日常の空間を創ることによって、人が建物や空間の新しい可能性を見出したり、自分たちのまちを見つめなおしたり、新しい交流を生み出すなど、まちの価値を高め、まちの魅力を引き出す効果があると考えられる。また、そのような活動が広がることで、まちに対する人の意識が変わり、まちと関係のある活動に繋がっていくと考えられる。繋がりができることで、活動はより地域と密着したものとなり、専門的な目線ではないからこそ、訪れた人や関わった一般の人たちの興味や関心を得るものとなり、人々を活動にひきつける効果があると考えられる。

アートを利用した活動は、多くの人を繋ぐきっかけとなる。そして、空間を上手く活かすことにより、古い建物や遊休空間が活用され、まちと関わりのある活動が誘発される。また、横の繋がりができることで、創造的活動の幅が空間的にも活動内容的にも広がっていく。

創造的活動は、数多くの繋がりを作り出し、まち住んでいる人や専門家、技術者が地域に目を向けるきっかけになり、都市の活性化に繋がると考えられる。しかし、そのためには、複数の活動を繋ぐキーパーソンが存在が必要であり、また訪れた人や関わった一般の人たちの興味や関心を引くような活動を行っていくことが重要であると考えられる。

補注:

(1)遊休地：駅やビルの建設予定地や開発途中の現場、また建物内部の現在使われていない空間

参考・引用文献:

- 1) 植田和弘・神野直彦・西村幸夫・間宮陽介(2005.10)「都市の再生を考える 第8巻 グローバリ時代の都市」pp.50-59
- 2) 菅野幸子「フランス 甦るナント - 都市再生への挑戦」『文化による都市の再生 - 欧州の事例から』p.34-50
- 3) 佐々木雅之(2006)「日本における創造都市の理論と政策的課題」p.9 都市研究プラザ開誌記念 国際シンポジウム資料
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/symposium200612pdf/061221speaker_02.pdf
- 4) 渡部香(2004)「文化による都市再生と創造都市 その史的解釈の試み」社会文化科学研究第8号
- 5) 植田浩史(2006)「地域産業の再生・産業集積をどう生かすか」経済研究報告 vol.19

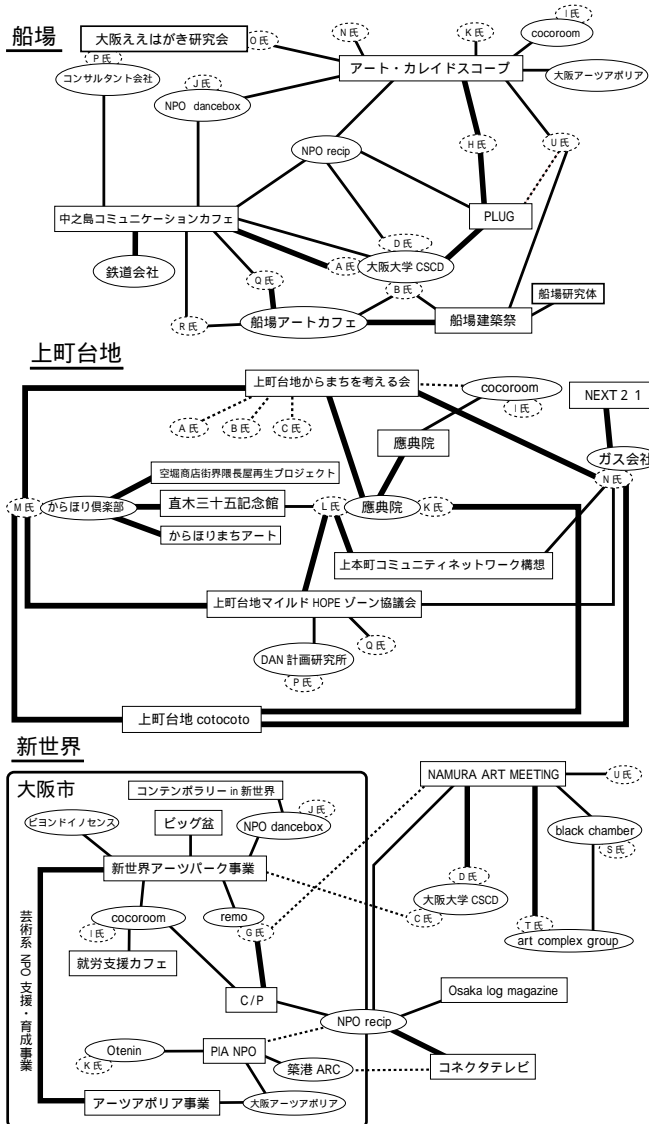


図4 それぞれのエリアにおける活動間の関係図